

科目名	人間学特殊ゼミ I C (教育心理学)				学期	前期	単位数	2	担当者	上野和久
副題	-									
ナンバリング	N3-10-280	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,4	

授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。
 ・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。
 ・学習と評価の問題について理解を深める。
 ・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2. 発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3. 様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4. エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5. エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6. 学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7. 学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8. 知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9. 学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10. 学習意欲と教育評価について学ぶ。
11. 発達障害（LD、ADHGなど）について理解する。発達障害（LD、ADHGなど）について理解する。
12. 生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
13. 生徒の不応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14. 特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。
15. 自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。（90分） 授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。（90分）

テキスト

桜井茂男編、『教育心理学』.図書文化,2003年

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編、『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房,2012年

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）・出席状況およびディベート等の状況（25%）・学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 学習のメカニズムを理解している。
- (B) 様々な学習方法を説明できる。
- (A) 自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
- (S) 様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回出席を取る。テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

教職経験（教諭ならびに管理職）32年間の教育現場での知識を和歌山大学において教員養成課程で実践している。その授業の中において、教育心理学を生かしたアクティブラーニングの実践授業を行っている。これらの実践体験をもとに、新しい視点から教育心理学の講義を試みる。それは、大人の枠組みからの教育心理学と、学ぶ側からの教育心理学という2方向からみた「学びのこころ」を考える場として授業を行っている。